

TCFD提言への取り組み

TCFDフレームワークに基づく開示

キュービーグループの事業は、気候変動により様々な影響を受ける可能性があり、サステナビリティに向けての重要な課題と認識しています。2021年10月に賛同した気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言を踏まえてシナリオ分析に着手し、以下の枠組みで取り組みを進めています。



ガバナンスとリスク管理

サステナビリティ関連の重点課題は、担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会が方針・計画の策定を行うとともに、取り組みを推進しています。特に気候変動にともなうリスクの特定・評価に関しては、組織横断のTCFD対応プロジェクトを結成し、運営しています。プロジェクトで特定された気候変動リスクおよび対応策は、サステナビリティ委員会で承認され、進捗管理します。委員会で検討した内容などは、経営会議、取締役会でも適宜報告・審議がなされるなど、適切な監督体制を整えています。

戦略・シナリオ分析

戦略

気候変動にともなう様々なリスクと機会について、その重要性に応じて短期・中期・長期にわたっての特定を行い、また外部環境の変化も踏まえ、定期的に分析・評価の見直しを行っています。リスクと機会の特定においてはIPCC^{注1}やIEA^{注2}などが発表しているシナリオを用いて、2つのシナリオを描き、2030年の事業におけるインパクトを算出しました。

シナリオ分析の適用

2021年から2024年にわたる中期経営計画において、段階的に分析範囲を拡張していきます。2021年度は国内および海外市場におけるマヨネーズ、ドレッシング(特に深煎りごまドレッシング)に対する気候変動リスクと機会の分析を行いました。

注1 IPCC 気候変動に関する政府間パネル
(Intergovernmental Panel on Climate Change)
注2 IEA 国際エネルギー機関(International Energy Agency)

主な気候変動リスクと機会

環境政策進展シナリオ^{注3}で特定したキュービーグループのリスクと機会

リスク項目			リスク	機会	時期 ^{注4}	インパクト
大分類	中分類	小分類				
移行 リスク	政策・ 規制	炭素税の導入	●		中期	小
		プラスチック・ 包装材への規制	●		中期	小
		未利用資源の価値化		●	中期	小
	市場	サステナビリティ性が 高い商品の需要増加		●	中期	小
		環境に配慮した 原資材の調達コスト増加	●		中期	小

成り行きシナリオ^{注5}で特定したキュービーグループのリスクと機会

リスク項目			リスク	機会	時期 ^{注4}	インパクト
大分類	中分類	小分類				
物理 リスク	慢性	熱ストレスによる収量減少にともなう農作物の調達コストの増加	●		中期	中
	急性	洪水による生産設備の被災・停電、操業の停滞・停止	●		短～ 長期	中

注3 2100年時点において産業革命以前より1.5~2°C気温上昇し、環境政策が進展するシナリオ
注4 時期の定義 短期:2024年まで 中期:2030年まで 長期:2050年まで
注5 2100年時点において産業革命以前より2.7~4°C気温上昇し、気候変動に対し必要な施策や追加の対策が講じられない場合の成り行きシナリオ

指標と目標

気候変動によるリスクと機会を測定・管理するために用いている指標^{注6}

重点課題	取り組み テーマ	指標	2021 年度 実績	2024 年度 目標	2030 年度 目標
気候変動 への対応	CO ₂ 排出量 の削減	CO ₂ 排出量 削減率 (2013年度比)	24.0%	30% 以上	50% 以上

注6 CO₂排出量の計算においては「日本の環境省、地球温暖化対策の促進に関する法律の改定による、地球温暖化に対処する対策の促進に関する法律(2005年改訂)」を参照しています。